

## 資格取得後のステップアップを

枝 光 尚 美

大阪府立母子保健総合医療センター

診療情報管理士の通信教育に関わり始めて、10年以上が経過する。10年前の大阪スクーリング会場は、職業訓練学校の教室を1室借りて開催されていた。受講生は40人くらいだったと記憶している。今年2月、大阪会場の受講生は、700名以上であった。この受講生の急増は、平成12年、診療報酬として診療録管理体制加算が新設されたことが大きな要因である。また、診療録開示の推進や特定機能病院におけるDPCの導入などもあり、加速度的に受講生が増加している。診療情報管理士の先輩としては、後輩が続いてくれることは大変ありがたい。しかし、受講生の職種や病院の規模も多様で3時間の講義内容が受講生全員のニーズに沿えているのか悩むことも多く、資格取得後の教育の必要性を痛感している。

昨年、日本病院会 診療情報管理士教育委員会が「診療情報管理士の現況調査アンケート」を実施した。その調査結果で印象深かったのが、資格取得後、診療情報管理業務に就いている人の割合が38.3%であったことである。以前就いていた者を含めても、49%と半数以下であった。資格取得が、そのまま診療録管理業務への従事にはつながらない現状が明らかになった。但し、DPC導入施設への配置は進んできており、今後DPC導入が進むに従い、診療情報管理士の必要性がますます増してくることを期待したい。

もう一つの結果として、診療録管理学会へ加入している者の割合が47.7%、他の診療録に関係する団体への加入状況も25.6%と低い割合であったことには驚いた。この理由については、推測するしかないが、資格取得後、診療録管理業務に就いている者が半数以下であることをみると当然の結果であるかもしれない。しかし、診療情報管理士の教育の一端に関わり、卒後教育の必要性を痛感している者としては、通信教育で一連の基礎的な知識を身につけただけの診療情報管理士が、医療界からの期待に応えられているのか不安になる。医療を取り巻く環境の変化が急激である現状を考えると、与えられた課題をこなすだけの受身の姿勢ではなく、積極的に課題に取り組む意欲が必要である。そのためにも、資格取得後の学会や研究会への参加は業務を行ううえで不可欠であると考えます。

現在、私たち診療情報管理士に求められている業務は、専門的で高度な内容に変化してきている。その期待に応えられる診療情報管理士であってほしい。そのためには、資格取得を最終目標とするのではなく、是非卒後も継続して学んでくれることを希望したい。